

日本薬学会第111年会, 1991, 3, 東京.

- 2) 趙 春菊, 竹部幸子, 小橋恭一: ラットの臓器中のウレタン水解酵素. 日本薬学会第111年会, 1991, 3, 東京.
- 3) 車 慶明, 黄 新立, 服部征雄, 難波恒雄, 赤尾光昭, 小橋恭一: 紅花の生理活性成分に関する研究 II. 紅花中の 3α -hydroxysteroid dehydrogenase 阻害成分. 日本薬学会第111年会, 1991, 3, 東京.
- 4) 藤塚直樹, 横澤隆子, 大浦彦吉, 赤尾光昭, 小橋恭一, 家永和治, 中村 耕: Methylguanidine 産生機構に関する研究(2). 日本薬学会第111年会, 1991, 3, 東京.
- 5) 沖 裕治, 橋本 香, 後藤典子, 久保田昭正, 竹部幸子, 小橋恭一: 大豆オリゴ糖を原料とした食酢の糖成分及びヒト腸内菌叢に及ぼす影響. 日本農芸化学会, 1991, 3, 京都.
- 6) 渡辺 護, 竹部幸子, 久光健一, 小橋恭一: 有機リン剤抵抗性コガタアカイエカのパラオクソン水解活性に対する Ca^{++} の効果. 第43回衛生動物学会, 1991, 4, 神戸.
- 7) 赤尾光昭, 小橋恭一, 車 慶明, 服部征雄, 難波恒雄: ヒト腸内細菌 *Eubacterium* による C-グリコシド (バルバロイン) の C-C 結合開裂. 第11回日本ビフィズス菌センター学術集会, 1991, 6, 東京.
- 8) 赤尾光昭, 寺沢唯夫, 日合 奨, 小橋恭一: グリチルレチン酸誘導体による 3α -および 11β -ヒドロキシステロイド脱水素酵素阻害. 第8回和漢医薬学会, 1991, 8, 大阪.
- 9) 赤尾光昭, 赤尾泰子, 小橋恭一: ラット肝ミクロソームの雄特異的グリチルレチン酸脱水素酵素. 第64回日本生化学会, 1991, 10, 東京.
- 10) 藤塚直樹, 横澤隆子, 大浦彦吉, 服部征雄, 赤尾光昭, 小橋恭一, 家永和治, 中村 耕: ラット肝の methylguanidine 産生酵素はグロノラクトン酸化酵素である. 第64回日本生化学会, 1990, 10, 東京.
- 11) 横澤隆子, 藤塚直樹, 大浦彦吉, 服部征雄, 赤尾光昭, 小橋恭一, 家永和治, 中村 耕: ラット腎の MG 産生酵素の精製. 第34回日本腎臓学会, 1990, 11, 大阪.
- 12) 横澤隆子, 藤塚直樹, 大浦彦吉, 服部征雄, 赤尾光昭, 小橋恭一, 家永和治, 中村 耕: MG はラット肝 L-gulonolactone oxidase により産生される. 第34回日本腎臓学会, 1990, 11, 大阪.
- 13) 高城直幸, 今村理佐, 小橋恭一: アルコール飲

料中のカルバミン酸エチル: シアン酸由来の生成モデル. 日本薬学会北陸支部第85回例会, 1991, 11, 金沢.

- 14) 村井健二, 趙 春菊, 今村理佐, 竹部幸子, 小橋恭一: アラビノガラクトランの腸内細菌による代謝. 日本薬学会北陸支部第85回例会, 1991, 11, 金沢.

◆ その他

- 1) 赤尾光昭, 赤尾泰子, 服部征雄, 難波恒雄, 小橋恭一: グリチルレチン酸およびその関連化合物による 3α -ヒドロキシデヒドロゲナーゼの阻害. 和漢医薬学会誌, 7: 378-379, 1990.
- 2) 車 慶明, 服部征雄, 難波恒雄, 赤尾光昭, 小橋恭一, 津田喜典: 腸内細菌による和漢薬成分の代謝 (第22報) *Eubacterium* sp. における Barbaloin 代謝酵素の誘導. 和漢医薬学会誌, 7: 380-381, 1990.
- 3) 小橋恭一, 竹部幸子, 塚本佳志, 趙 春菊, 高城直幸: 細菌ウレタナーゼの性質. 乳酸菌研究会に関する報告書 [平成2年度], 229-233, 1991.
- 4) 服部征雄, 赤尾光昭: 新しい C-配糖体開裂酵素の精製と性質およびその生物学的応用. 長瀬科学技術振興財団研究報告集. Vol. 1, 163-172, 1991.

衛生・生物化学(2)

教授 中川 秀夫

助教授 三井 健一郎

教務員 加藤 秀子

◆ 原 著

- 1) Nakagawa H., Hatakeyama, S., Ikeshue, A., and Miyai, H.: Generation of interleukin-8 by plasmin from AVLPR-interleukin-8, the human fibroblast-derived neutrophil chemotactic factor. FEBS Lett. 282: 412-414, 1991.
- 2) Watanabe K., Koizumi, F., Kurashige, Y., Tsurufuji, S., and Nakagawa, H.: Rat CINC, a member of the interleukin-8 family, is a neutrophil-specific chemoattractant *in vivo* Exp. Mol. Pathol. 55: 30-37, 1991.
- 3) Ohno-Iwashita Y., Iwamoto M., Mitsui K., Ando S. and Iwashita S.: A cytolysin. θ -toxin, preferentially binds to membrane cholesterol surround-

ed by phospholipids with 18-carbon hydrocarbon chains in cholesterol-rich region. *J. Biochem.* **110**: 369-375, 1991.

◆ 総 説

- 1) 渡邊一義, 中川秀夫, 鶴藤 丞: IL-8. *Ann. Rev. 免疫* 1991: 157-165, 1991.

◆ 学会報告

- 1) 中川秀夫: 腎上皮細胞と IL-8. 第11回和漢薬研究所特別セミナー, 1991, 3, 富山.
- 2) 中川秀夫, 出淵早己: 炎症におけるゼラチナーゼの役割. 第38回マトリックス研究会, 1991, 3, 東京.
- 3) 中川秀夫, 畠山伸二, 池末厚俊: 線維芽細胞が産生する IL-8 ファミリー. 第12回日本炎症学会, 1991, 7, 東京.
- 4) 深山勝義, 加藤秀子, 中川秀夫: 滲出液の炎症細胞刺戟因子 (ICSP). 第12回日本炎症学会, 1991, 7, 東京.
- 5) 出淵早己, 中川秀夫: ゼラチナーゼによる炎症のメディエーターの分解. 第12回日本炎症学会, 1991, 7, 東京.
- 6) 小竹 彌, 畠山伸二, 倉茂洋一, 吉田 勲, 小泉富美朝, 中川秀夫: ヒト線維芽細胞が産生する好中球走化性因子について. 第12回日本炎症学会, 1991, 7, 東京.
- 7) 池末厚俊, 加藤秀子, 中川秀夫: 炎症組織が産生する好中球走化性因子の精製(第2報). 日本薬学会第111年会, 1991, 3, 東京.
- 8) 三田村真理, 中川秀夫: CPI (T-kininogen) の炎症組織線維芽細胞活性化作用に対する抗炎症薬の影響. 日本薬学会第111年会, 1991, 3, 東京.
- 9) 岩下淑子, 岩本真知子, 三井健一郎, 岩下新太郎: 細胞膜コレステロールの存在状態を規定する因子の解析—修飾 θ -毒素をプローブとして. 第38回毒素シンポジウム, 1991, 8, 名古屋.
- 10) 岩下淑子, 岩本真知子, 安藤 進, 三井健一郎, 岩下新太郎: 細胞膜コレステロールの存在状態の修飾 θ -毒素による識別—人工膜を用いた解析. 第64回日本生化学会, 1991, 10, 東京.

衛生・生物化学(3)

教 授 西 荒 介
助 教 授 岡 村 昭 治
助 手 黒 崎 文 也
助 手 守 田 雅 志

◆ 著 書

- 1) 黒崎文也: 植物の防御反応とその情報伝達機構. 「生物相互間の認識機構」久能 均編, 31-39, 日本植物病理学会, 東京, 1991.

◆ 原 書

- 1) Morita M., and Nishi A.: Glycoproteins and enzymes associated with the plasmodial membrane and slime layer of *Physarum polycephalum*. *J. Gen. Appl. Microbiol.* **37**: 93-109, 1991.
- 2) Kurosaki F., and Nishi A.: Comparison of enzyme activities involved in the biosynthesis of carrot phytoalexin 6-methoxymellein. *Phytochemistry* **30**: 1823-1825, 1991.
- 3) Kurosaki F., Tokitoh Y., and Nishi A.: Purification and characterization of wall-bound β -1,3-glucanase in cultured carrot cells. *Plant Science* **77**: 21-28, 1991.
- 4) Kurosaki F., Tokitoh Y., and Nishi A.: Role of β -1,3-glucanase in defense responses of cultured carrot cells. *Plant Tissue Culture Lett.* **8**: 124-126, 1991.
- 5) Kurosaki F., Itoh M., Yamada M., and Nishi A.: 6-Hydroxymellein synthetase as a multifunctional enzyme complex in elicitor-treated carrot root extract. *FEBS Lett.* **288**: 219-221, 1991.
- 6) Nishimura M., Tanigaki C., and Okamura S.: Changes in β -tubulin and their RNA level in synchronized tobacco cells. *Cell Struct. Funct.* **16**: 489-494, 1991.

◆ 総 説

- 1) 黒崎文也: エリクターと細胞内情報伝達機構. *組織培養* **17**: 525-529, 1991.

◆ 学会報告

- 1) 手塚康弘, 黄 慶, 菊地 徹, 西 荒介, 椿 啓介: 霊芝害菌 *Cladobotryum varium* Nees ex Steud の代謝産物の研究. 日本薬学会第111年会, 1991, 3, 東京.
- 2) 西 荒介: ストレスを利用した植物培養細胞による物質生産. 醸酵と代謝シンポジウム, 1991, 6, 東京.